

泣けない二人に快晴びーかんの空が笑った

登場人物

- 桧館五郎 (のだてごろう) ……写真館モーツアルトの主人(五十二歳)  
桧館邦宏 (のだてくにひろ) ……五郎の息子、健太の兄(十八〜二十八歳)  
桧館健太 (のだてけんた) ……高校生、五郎の息子で邦宏の弟(十八歳)  
田之倉麻紀 (たのくらまき) ……邦宏の一年後輩、農家の娘(二十七歳)  
筈原多恵子 (かさはらたえこ) ……保険の外交員で邦宏と健太の叔母、五郎の亡くなった妻の妹  
谷口勉 (たにぐちつとむ) ……健太の同級生(十八歳)  
田之倉希乃子 (たのくらののこ) ……麻紀の妹(十七歳) ノンコと呼ばれている。  
伊沢美桜 (いざわみお) ……健太を好きな女子高生、希乃子の同級生(十七歳)  
辻森源治 (つじもりげんじ) ……和菓子店、寿屋の旦那(五十二歳)  
辻森幸子 (つじもりさちこ) ……源治の妻(五十二歳)  
辻森正雄 (つじもりまさお) ……辻森家の一人息子で邦宏の同級生(二十八歳)  
丸田安則・ヤス (まるたやすのり) ……ペンション朝靄の主人、真智子の夫(四十八歳)  
丸田真智子 (まるたまちこ) ……安則の妻(四十五歳)  
齋上武史 (ほぞがみたけし) ……定年で退職した元川鍋高校の教頭先生(七十歳)  
杉原菜都美 (すぎはらなつみ) ……朝靄の客、エッセイスト・ラジオのDJ(二十歳)  
浜口宗二 (はまぐちそうじ) ……モーツアルトを訪れる老人、朝靄の客(七十二歳)  
桧館健太 (小学生の頃の健太)

SE 球場の声援が聞こえて来る。

源治 かつ飛ばせ〜〜につひろ、それっ、

川鍋町の住人 かつ飛ばせ〜〜につひろ。

明るくなり、舞台奥一段高く、応援する川鍋町の住人達。その背後には上下に高校生らが持った二本の横断幕「必勝 川鍋高校、決める甲子園！」の文字が読める。舞台上手、スポットに浮かぶ小学生の健太。

健太（小） そいは、九回裏のツーアウト絶体絶命ちゆう場面で、そん日初めてランナーば二三塁に置いてのチャンスでした。我らが川鍋高校の打席に立ったとは、やっばい兄ちゃんやっただです。

舞台奥からゆつくりと登場するバットを持った邦宏。

多恵子 邦宏〜。

幸子 邦ちゃん。

源治 (歓喜) この場面で邦宏で、

齋上

(叫ぶ) 桧館く〜ん、遠慮無くかつ飛ばしなさい。

健太 (小)

打率五割越えの邦宏兄ちゃんの登場に、川鍋高校応援席のボルテージは最高潮に達したとです。

舞台前面 少し下手寄りに打席に立つ邦宏、ルーティンの動作をしている。

女子学生

野館く〜ん、

男子学生達

かつ飛ばせ〜桧館、

女子学生達

かつ飛ばせ〜桧館、

幸子

(齋上に) 教頭先生、ここでホームラン出たら逆転やろ？

齋上

そんな通りたい。(五郎にお父さん、やっばい邦宏君は持つとりますねえ。

五郎

(心細げに) そがんですかねえ。

多恵子

(五郎に) 兄さんには悪かばってん、邦宏はやっばい姉さんに似たとよ。必ず期待に応ゆっけんね。

源治

二点差ばってんランナーも二人、長打なら同点、ホームラン打ったらサヨナラた  
い。

幸子

そしたらウチん正雄も一緒に甲子園に行けるったいね。

源治

(興奮し嬉しそうにかあちゃん、こりゃ家は抵当にいれてでん応援に行かんば。

多恵子

教頭先生、バスはウチが手配するけん、保険もウチん代理店でお願いしますね。

臍上

多恵子さん、そがん話はまた後で。

女子学生達

野館く〜ん、

全員

かつ飛ばせ〜禁館。

健太(小)

ばってん、みんなが盛り上がってる中、ペンション朝靄の丸田のおじさんだけは  
クールにこう言ったとです。

ヤス

源さん、残念ながらここで邦宏のホームランは無かばい。

源治

は？

幸子 何ば言いよつと、邦ちゃんはがん場面ではいつでんホームランば打つて、

多恵子 そうたい、予選でも邦宏はホームランば十二本も打つとるとよ、

真智子 百パーセント無かよ。

幸子 真智子さんあんた、何ば言いよつと、

五郎 あ、教頭先生、キャッチャーの立ち上がりました。

臈上 あちやく、

ヤス 言うたやろ、敬遠たい。あとワンナウトでゲームセット。一塁は空いとるし、邦

宏ん次はチームのお荷物、正雄やもん。

幸子 え、正雄、

健太(小)

寿屋の一人息子正雄兄ちゃんは、レギュラーではなく補欠の補欠でバケツつて呼ばれよつたとです。元々少ない部員に故障者が続出して、予選も含めそんな時初めて打席に立つことになる正雄兄ちゃんには僕たちだけじゃ無く、寿屋のおじちゃんおばちゃんすら、まったく期待しとらんやつたとです。

幸子 (落胆、困った) そうたい、次はウチん正雄たい。

源治 かあちゃん…。

ヤス ここでわざわざ一発のある邦宏と勝負する筈ん無か。

五郎 教頭先生…。

臈上 まいったですね。まさかの敬遠策ですか。

真智子 教頭先生、何が「まさかの」ね、野球のイロハたい。

健太 (小) ピッチャーは振りかぶる事も無く、山なりの一球目を投げました。

(SE・ボールの音) ヒューン、ストン、(SE・審判の声) ボール。

全員 (ため息) は〜。

健太 (小) 大きく外れてボールワン。僕は見とられんやったです。

仕方無く、またルーティーンの動作をする邦宏。

真智子

源さん、正雄んせいで負けたって言わるっとは覚悟しとかんばたい。

幸子

邦ちゃん、何とかしておくれ。

ヤス

さすがの邦宏も敬遠じゃ何も出来んて。

健太 (小)

そしてピッチャーは、二球目ば投げたとです。

(SE・ボールの音) ヒューン、ストン、(SE・審判の声) ボール。

全員

(ため息) は。

健太

また大きく外れてボールツ。僕ももう駄目って思ったそんな時でした。邦宏兄ちゃん、ピッチャーに向かって叫んだとです。

邦宏

こらくお前はそれでも男か？またの間に(SE・ピー音)ついとるとか？女の腐ったことつ事して甲子園に行っても、九州男児の恥さらしたい。(大笑い)

健太

僕はびっくりしました。いつもの邦宏兄ちゃんは、そがん事は絶対に言わん人やったとです。ばってん、そいば聞いたピッチャーは真つ赤な顔して第三球、ど真ん中に直球ば投げたとです。

(SE剛速球の音) ヒュー、

邦宏 貫った。

(SE・金属バットの音) カッキーン！響く歓声・ワッ。

明転。横断幕を持って退場する応援の面々。小学生の健太中央に移動。下手に立つ邦宏。健太(小)と邦宏がスポットに浮かぶ。

健太 (小) 兄ちゃんがあがんこと言うとは初めて聞いたけん、僕びつくいしたよ。

邦宏 ちよつと品の無かったばってん、次が正雄やったけん。

健太 (小) え、

邦宏 正雄は本なこと野球は下手くそたい。ばってん練習は頑張ったけんね。

健太 (小) そしたら、正雄兄ちゃんの為に？

邦宏 勿論 兄ちゃんもあん場面では打ちたかったよ。ばってんそい以上に、正雄の高校最後の試合は、悪か想い出しとう無かったけん。

健太（小） ……兄ちゃん…。

邦宏 健太、チームはいつでんワンフォーオール、オールフォーワンたい。

笑顔の邦宏、頷く健太（小）。下手に去る邦宏、後を追う健太（小）。 暗転。

明るくなり、写真館モーツアルトの前（舞台上手の手前）で遠い目をしている高校生になった健太。背後に希乃子と美桜。健太に呼びかける希乃子。

希乃子 健太…健太…（反応が無いのできつく）健太。

健太 あ、なっ何？

希乃子 何って、あんた今一瞬ワープしとったよね。

健太 え？

希乃子 兄ちゃんが打った〜って言うてから水平線は見るこたっ眼して、どっか違う世界に飛んで行ってしもうたい。

健太 そがんことは、

希乃子

美桜、こん健太はね、時々どっかにワープすつとよ。

健太

何ば言いよつと、

美桜

野館先輩は、ロマンチストじゃなかと。

健太

(少し照れて)いや、

希乃子

そがん良かもんじゃ無かどつて。ただのブラコンたい。

健太

ブラコン？

希乃子

健太がワープするとは大抵邦宏兄ちゃんの話ばしよる時か、邦宏兄ちゃんの事ば考えよる時たい。

健太

え、そうかね？

希乃子

幸か不幸かあんたの幼馴染みのウチは、あんたん事なら何でん分かるけんね。

美桜

(小さく)羨ましか。

健太 ノンコ、ブラコンて何ね？

希乃子 ブラコンはブラザーコンプレックスたい。男の兄弟に対する特別な感情 まあ一般的には姉や妹が兄や弟に抱く感情ばってん、健太の場合は若干お姉系入つとるけん、不思議は無か。

美桜 え、野館先輩お姉系なんですか？

健太 ノンコ、おかしな事ばつかい言うなよ。

希乃子 おかしかとはそつちたい。ウチ達があんたに訊いたとは好きな女ん子んタイプよ。そいが何で途中から邦宏兄ちゃんの昔話になるとね。

健太 え、そうやった？

希乃子 あんたんこたるさえん男ば、ウチ達の神聖な恋バナに入れてやったとに、少しは感謝せんね。

健太 …別にそがん話に入れて貰わんでも…。

希乃子 (睨む) 何？

健太

いえ、何も、

美桜

(希乃子と健太のやり取りを見て)二人は仲良かどすね。

希乃子

はあ？幼馴染みちゆう名の腐れ縁よ。

美桜

(健太に)そいで、お兄さん達はそんな試合に勝って甲子園に行ったとですか？

健太

(首を横に振り)兄ちゃんが打ったとはホームランじゃなくて二塁打、二点入って延長戦には纏れ込んだばってん、十回に大量得点されて負けてしもうた。

希乃子

で、いまだに川鍋高校のクラブ活動で全国大会に出た部は無かどよ。

美桜

そうなんですか。ばってん、お兄さんって格好良かったとすね。

希乃子

川鍋高校伝説の男やもん、ねっ健太。

健太

うん。

希乃子

イケメンで秀才よ。テストはいつでん学年トップ。オマケにプロのスカウトから声の掛かるくらい野球は上手かったとよ。

美桜

そしたら女子にはモテモテやったでしょうね。

希乃子

もちろん。学年が一つ下やったウチん姉ちゃんも言いよった。邦宏兄ちゃんが廊下歩くだけで女子はキヤキヤキヤキヤやったつて。

美桜

へえ。私も会って見たかです。(健太に)今日はお家に？

希乃子

おらんとよ。

美桜

出掛けとらすと？

希乃子

邦宏兄ちゃんは死んでもうた。

美桜

えっ、(健太を見る)

健太

うん。大学出て、東京の新聞社に入ったばってん、二年前に取材中の事故で死んでもうた。

美桜

…ごめんなさい、私、

健太

気にせんで良かよ。もう二年も前の話たい。

美桜

ばってん、

健太

そりや二年前はショックやったばってんね。

希乃子

：そんならせば聞いた時は、ここら辺りの灯が消えたことなつたとよ。近所みんなで落ち込んで、みんな邦宏兄ちゃんば好いとつたけん。

健太

兄ちゃん、野球以外も何でん出来て、みんなに優しかったけん。

希乃子

健太、小学生の頃言いよつたもんね。ウルトラマンや仮面ライダーよりウチん兄ちゃんの方が格好良かゝつて。

美桜

素敵なお兄さんやったとすね。

希乃子

弟のヒーローになる位にね。

健太

∴。

希乃子

(空気を読み、わざと元気に)ばってん、残念ながら弟は兄ちゃんには全然似とらん。  
(笑)

美桜

そがん事は、

希乃子

勉強はまあボチボチ、スポーツはまったくダメ、顔は、(笑) 暗か。

健太

俺のどこが暗かとね？

希乃子

(からかって) 暗か暗か。暗さが三つ揃るとたい。根暗ボンクラお先真っ暗。

健太

ノンコ、お前ちよつと言い過ぎやろ。

笑い転げる希乃子、ふてくされる健太。

美桜

あの、

健太

ん？

美桜

…格好良かですよ。

健太

格好良か？

美桜

はい…健太さんも。

希乃子

…健太…さん。

健太

∴。

希乃子

美桜、(引き寄せ、小声で)焦ったらダメって。安売りしたら男はつけ上がるとよ。

美桜

ばってん、

希乃子

城は攻め落とす時も、まず外堀は埋めてから。物事は順番通りにやらんと、上手く筈ん事も上手くいかんことなるとよ。

美桜

順番通りって、ノンコ私まだ紹介もして貰つたらんけど。

希乃子

えっ、

美桜

「え」じゃなかよ。

希乃子

ウチもう三十分以上話してる気がするけど、また美桜んこと紹介もしたらん？

美桜

そっ。

希乃子

あゝごめん、

健太 ノンコ、用が無かとなら、俺もう行くけん。

希乃子 あつ、ちよつと待つて健太。紹介するね。この子伊沢美桜ちゃん。

健太 …。

美桜 初めまして。伊沢です。

怪訝そうに美桜に会釈する健太。

希乃子 ウチと同じ二年生で、クラスも同じ。三ヶ月前に佐世保市内から越してきて、今

はもうウチん親友。

健太 佐世保から、

美桜 はい。

希乃子 市内の女子校やったとつて、ほら、どことなくお嬢様って感じやろ。

美桜 よろしくお願ひします。

健太 …よろしくつて？

希乃子

美桜、写真に興味あるって、

健太

え、

美桜

はい、写真部に入りたいて思ってます。

希乃子

そう。それで健太に紹介したかったと。

健太

なるほどね。ばってん、うちん写真部の実態は、残念ながらただの同好会たい。部員も少なかし、みんなサボってばっかい。期待して入ったらがつかいするよ。

美桜

健太さんはいい写真はいっぱい撮ってるって聞きました。

健太

俺は、家の家業が写真館やけん、何となく写真部に入っただけ。どうしても入部したかったら部長の勉に言えば良か。

希乃子

勉、言う事も写真もみんなピンボケで、ちよつとおかしかもん。

健太

あいはキャパに憧れとるけん。

美桜

キャパ？

健太　ロバートキヤパ、有名な報道カメラマンで、

勉(声)　健太。

勉、下手奥より勢いよく飛び出す。

健太　勉、

勉　健太、お前のカメラ貸して、

健太　何ねいきなり、

勉　観音岩の近くの山道で、人が足滑らして、谷に落ちたって。

健太　え、落ちたって、誰が？

勉　誰か分からんけど、どっかの爺さんたい。たまたま通りかかった教頭先生や寿屋の親父達が救助しよるけど人手が足りんけん手伝えって。そいけんお前のカメラ貸して。

健太　何でカメラの要るとね？

勉  
その爺さん、崖の途中で木に引っかかってぶら下がってるって。絶好のシヤッタ  
ーチャンスたい。

健太  
勉、そがんに時に写真なんか、

希乃子  
そうよ、人の命が危なかつ時に、写真なんか撮りよる場合じゃなかない。

勉  
説教は良かけん、とにかく健太お前のカメラ貸して。

健太  
断る。それにお前、自分のカメラがあるやろが。

勉  
俺の愛機ニコン君、うかつな事に充電しとらんやつた。頼む健太。

健太  
嫌だ。

美桜  
あの、高校生にまで助け求めるって、よっぽどの事じゃなですか。

希乃子  
そうたい、

上手の写真館の中、奥から五郎登場。

美桜 本当に人手が足りんとですよ。急いで助けに行った方が、

五郎が写真館から出て来る。

五郎 健太、観音岩の辺りで人の落ちたって。消防も救急もどつかの火事に出払つとる

らしかけん、手伝いに行ってくる。

健太 俺も行くよ。

下手奥に消える五郎、後を追う健太。

勉 おい健太、カメラ貸せって、カメラ、

勉も健太の後を追う。

希乃子 ウチ達も行く？

美桜 うん。

下手に、健太達の後を追う美桜と希乃子。

明転、舞台セットが変わる中、上手に小学生の健太登場。

健太(小)

こいが、高校三年生になった僕の、騒がしくてちよっぴり切なか夏休みの始まりでした。この夏が終わる頃、僕は少し大人になるとです。

舞台下手には救助活動に集まった住人達。

臍上

(舞台下手の崖の下に向かって)大丈夫ですか。怪我、しとらんですか。

浜口(声)

怪我はしてませ〜ん。でも〜、腕が疲れて来ました〜。

臍上

もう少しだけ我慢して、しがみついとつて下さ〜い。今、人ば集めますけ〜ん。

浜口(声)

あの〜、

臍上

何ですか〜。

浜口(声)

無理はしないでいいですよ〜。

臍上

はあ？おたく、何ば言いよつとですか〜、

浜口(声)

いや、本当に、落ちた私が悪いんで〜、二次災害でも起こしたら〜、

躰上 馬鹿な事言うたらんで、しつかり掴まっとなって下さい。今、助けますから。

浜口(声) 申し訳、ありませう。

源治 (ロープを持って、息を切らしながら下手の木から下りてくる)ふ、教頭先生、やっぱいオイには登れん。真上からロープ垂らすちゆうとは、

躰上 源さん、急がんなば、あん人落ちてしまっよ。

源治 そいは分かつといますよ。ばつてん、子供ん頃から木登りは苦手やつたんです。

躰上 もうく仕方ん無かねえ。そしたら(下手の崖の淵とりあえずそっから下に降りて、先にロープばあん人の腰に括り付けて来て。

源治 えつ、オイがですか？

躰上 そうたい。他に誰がおるね。

源治 いやいやいや無理ですって、(崖の下を覗き込み)こん崖ほとんど垂直ですよ教頭先生。落ちたらこつちの命も無かですよ。

臍上 情け無かねえ。私ともう少し若かったら…。

源治 やっぱいい人が来るとば待ちましょう。

臍上 ばってん、そがんしよる間に落ちてしもうたら、

五郎(声) 教頭せんせーい、

臍上 やつと来たか。

源治 五郎さーん、こつちこつちく、

上手より、健太、勉、五郎の順で走り出る。

五郎 あゝここやったですか、

臍上 ご苦労さん、ご苦労さん、

五郎 観音君の近くって言われてもなかなか分からんで、

下手より、美桜と希乃子も走り出る。大人達の顔を見て会釈。

健太 あの、落ちた人は、

源治 (下手の崖の淵)こつちこつち。

源治 (崖の下を)ほら、あそこ、

崖の下を覗き込む男達。離れて見守る希乃子と美桜。勉はスマホで写真を撮っている。

健太 どこね？

五郎 誰もおらんですよ。

健太 どこ？

源治 ほら、あん岩と茂みの間から、ちよつとだけ頭ん見えんね。

五郎 茂みの間って、

源治 (叫ぶ)今、援軍が来ました。すぐに引き上げますけん。

浜口(声) すみませけん。

五郎 あく分かった、

健太 あそこか、

五郎 うあくあそこね、こりやあく、(難しい)

臍上 (五郎に) 厳しかやろ。

五郎 うゝん、

勉 (嬉しそうに) しかし、どがんにして落ちたとやろね。(スマホを構える)

勉をやめさせる健太。呆れた希乃子と美桜も勉を勇達から引き離す。

希乃子 (小声で勉に) 何ばしよつと、

洪々スマホをポケットに入れる勉。

源治 (ロープを手に) こんロープで引き上げようかと思て。

臍上 落ちた人、年寄りやけん、ロープ下ろしても自力では上がれんたい。上から引つ張り上げるしか無かやろ。

五郎  
ばってん、そのまま引つ張り上げて、途中で岩や枝に引つ掛かって上がらんですよ。

脛上  
うん。そいけん、先にロープばあん枝（下手頭上）から垂らして、誰かが下に降りて、そのロープ先は落ちとる人の腰に括り付けたらどがんやろ。

五郎  
真上に吊り上げるつちゆうことですか。

また崖の下を覗き込みスマホで撮影しようとする勉。

源治  
うん、障害物は避けてね。

脛上  
上がって来たところで、こつちに引つ張り寄せて、

もう一度崖の下を確認する五郎。

五郎  
うん、（難しい）

健太  
（スマホでの撮影を）勉、やめろって、

勉  
ちえつ、

希乃子

(小声)馬鹿じゃ無かと。

五郎

こん木に登るとも大変やし、ここは降りるとも敷しかね。

健太

父さん、崖は俺が降りるけん。

五郎

健太、行けるか？

健太

うん。あと木に登るとは、勉が、

勉

え〜俺、

源治

そうやね。若つかもんに任せた方が良かやろね。

勉

健太、俺は、(嫌だ)

健太

勉、(木の土)上から乗り出して撮ったらベストショットじゃ無かと？

勉

え、(気づいて、嬉しそうに)そうたい。

健太

ばってん、写真はロープばセットした後はい。

勉 了解（源治に、ロープを良かですか。

源治 うん、頼むばい。（ロープを勉に渡す）

臍上 じゃあ二人とも気をつけて、

健太 はい、

ロープを持ち、木に登り始める勉。健太は崖の下に降りて行き姿が見えなくなる。心配そうに見守る女の子達。

源治 勉、細か枝はすぐに折れるけんね。

勉 任せてくださいって。

希乃子 健太、気をつけて。

美桜 （健太に気をつけてください。）

源治 （身軽に登る勉を見て）お、早か早か、あつという間たい。

臍上 やっぱい若っかけんねえ。

勉 えつと…。

源治 勉、そんな右の太か枝、

勉 あゝこいですか。

源治 そうそう、

勉、無事ロープを枝に掛け、手元で二三回輪をつくる。

勉 健太、行くばゝい。

健太(声) オーケ、

丸めたロープの先を崖下に投げる勉。

源治 (崖の下で健太がロープを受け取ったのを確認)おっし、

ロープの先がスルスルと崖の下に吸い込まれていく。崖の下を覗き込む面々。木の上から撮影する勉。

臍上

健太、そんな松の枝は枯れとるけん、気をつけて。 (健太が違う枝を慎重にを掴んで) うん、そいは良か、そいは大丈夫。 (健太が浜口に近づき) よしよしよし、

希乃子

健太、頑張って、

美桜

気をつけてくださーい、

木の上からスマホで撮影する勉。

五郎

左から廻った方が良か、左から、

源治

そうそうそう、足場の良か所ば選んで、

一同

あ、 (下で健太が足を滑らしそうになるが、大丈夫だったので) ふ、

臍上

慎重に、慎重に、

木の上でいい写真が撮れて喜んでる勉。五郎は腰を抜かしている。

希乃子

びっくりした。 (美桜に) 今危なかったね。

美桜

うん。もう少しで足滑らして…。

希乃子 (五郎に)あれ、おじさん、大丈夫？

五郎 …ああ、大丈夫、大丈夫、

臍上 (下で健太の手が浜口に届こうとしている)よしよし、そのまま、そのまま、

源治 もう少し、もう少ししたい。

臍上 そうそう、よし。後はそんな人の腰にロープば回して、しっかい結んで、

固唾をのんで見守る一同。やがて安堵の顔。

健太 オツケーです。

源治 おし、

健太(声) 俺、こんまま下でフォローします。

臍上 頼むよ。

浜口(声) あのと、

臍上  
何ですか。

浜口(声)  
本当に〜申し訳ありません。

臍上  
だから〜気にせんで良かですよ。

浜口(声)  
ありがとうございます。

臍上  
礼言うとも、上にながってからにしてください。

源治  
変わった人やね。

臍上  
健太、合図してから引張るけんね。

健太(声)  
分かりました。

ロープの端を掴む源治と淵上。

希乃子  
ほら、勉も降りて来んね。

洪タスマホを仕舞い、木から降りる勉。ポジションを確認、踏ん張る位置を決めたりしている。

源治 あれ、五郎さん、どがんとしたと？

五郎 ちよつと、腰は、

源治 立てるね？

五郎 大丈夫です、(痛そうに立ち上がる)

臍上 五郎さん無理せんちや良かよ。

五郎 大丈夫です、教頭先生。

臍上、五郎、源治 勉の四人がロープを掴み、引き上げる準備が完了する。

臍上 (女ん子に達じにしたら、ノンコ達は下ば見て、合図は送ってくれんね。

希乃子・美桜 はい。(崖の淵へ移動)

臍上 (男達に)みんな良かね、一回吊り上げ始めたら、もう降ろせんけんね。

五郎 分かりました。

源治

四人おれば楽勝やろ。

勉

力仕事は自信無かとに。

臍上

ノンコ、こつちは良かよ。

希乃子

健太く引つ張るよく良かねく。

健太(声)

オツケく。

源治

教頭先生、

臍上

うん。せくの、

※ココからは歯を食いしばりながらの台詞となる。

男達

(引き始めるがかなり重い)ヨイシヨ、ヨイシヨ、

勉

あれ、これ、結構

五郎

うく、

源治

重たかね、

五郎

そがんですね、くつく、アタタタ、ちよつと腰の、

臍上

五郎さん、今放したらいかんよ、今放したら、

五郎

分かっとります、分かっとります教頭先生、

勉

これちよつと、重た過ぎじやなかですか？

源治

上の、あん枝とロープの摩擦が大きかと思はなかつたか。

臍上

まあ、滑車が付いとる訳じやなかけんね、

勉

う、きつか。

源治

思ったより、厳しかばってん、ここは一つ頑張って、

男達

ヨイシヨ、ヨイシヨ、

美桜

上がって来よるです、上がって来よるですよ。

男達

ヨイシヨ、ヨイシヨ、

勉

くゝ、

男達の手が止まる。

男達

フゝ、フゝ、

希乃子

ウチ達もそつちに行きましょか？

臍上

いやいや、こつちは良かけん下ば見とつて、うゝ、

希乃子

美桜、下見とつて、

美桜

うん、

希乃子

ウチもここに入ります。(希乃子もロープを引き始める。)

引き手達

ヨイシヨ、ヨイシヨ、ヨイシヨ、ヨイシヨ、

健太(声)

ちよつと待つてゝ、

美桜

ちよつと待つて、ちよつと待つてください、

臍上

何ね？

源治

どがんとしたと？

美桜

枝が邪魔になって、今、健太さんが交わってますけん。

健太(声)

オツケ、

美桜

良かみたいです。お願いします。

男達

ヨイシヨ、ヨイシヨ、

美桜

頑張つて下さい、もうひと息です、

男達

ヨイシヨ、ヨイシヨ、

美桜

もうすぐそこですから、

源治

(辛くなり)あゝダメダメダメ、

またロープを引く手が止まる。

引き手達

フゝ、フゝ、

五郎

何か、息が合わんですね、

美桜

もうあとちよつとですけど、

臍上

五郎さん、かけ声ば掛けて、

五郎

私ですか、

臍上

うん、頼むけん。

源治

そうね。そいで、息合わせて一気に上げた方が良か。

五郎

分かりました。それじゃあ皆さん、(はいチーズのような言い方で)いいですか、視線はロープの先く、はいヨイシヨ。

希乃子

待って、待って、待って、

勉 おじきさん、

希乃子 何ねその「はいチーズ」のごたるかけ声は、

源治 写真の撮影じゃ無かばい。

五郎 あく、申し訳無か。つい、いつもの癖で、

勉 力が抜けるたい、力が、

五郎 そいじゃ、も一回、

浜口(声) あの、すみません、

臍上 何ね、お宅また、後にして貰えんね、

浜口(声) もしかして、そちらに、写真館のご主人おいでじゃ無いですか。

五郎 え、

源治 五郎さん、

五郎 お宅、どちら様ですか？

浜口(声) 私ですよ、私、浜口です。その節は、妻と二人で大変お世話になりました。

五郎 え、あの、すみません、どちらの浜口さんで？

希乃子 五郎おじさん、話は後にして、

臍上 今はとにかく、

五郎 あくそうやった、

源治 うゝ、くゝくゝ、

浜口(声) いや〜お懐かしいです、もう三十年以上前ですよ。

五郎 え、

浜口(声) あの時の赤ちゃん、坊ちゃんでしたよね。もう二十路過ぎですか。

五郎 お宅、いったい？ (手を放し、立ち上がる)

急に荷重が増し、慌てる引き手達。

引き手達　　うゝ。

源治　　五郎さん、何ばしよつとゝ、

希乃子　　おじさゝん、

一同　　(悲鳴)あゝ、

スルスルと崖の下に引き込まれて行くロープ。全員が崖の淵に走り寄る。

浜口(声)　　あゝ。

照明が変わる中、落ちていく浜口の声が反響する。

夜、写真館の前。ボンヤリと座って居る健太、カメラを持っている。下手より、麻紀登場。

麻紀　　健太、こがん時間に外で何ばしよつと？

健太　　ああ、麻紀姉。